

グルジア政治・経済 主な出来事

【2015年1月12日～2015年1月18日】

[当地報道をもとに作成]

平成27年1月23日

在グルジア大使館

主な動き

1. アブハジア・南オセチア

【アブハジア】

▼グルジア政府がエングリ水力発電所をめぐる「アブハジア共和国政府」との協議を否定(16日)

・15日、アブハジアのメディアは、アブハジアの「国営」企業チェルノモレネゴ社のバサリア社長が、エングリ水力発電所の帰属に関して「既にグルジア側との交渉を始めた」と述べたと報道。

・エングリ水力発電所はアブハジア側に位置しているが、グルジア政府が管理しており、非公式な取り決めにより、生産される電力の40%がアブハジアに、60%がグルジアのその他の地域に供給されることになっている。

・16日、エネルギー省は、エングリ水力発電所をめぐる協議を開始した事実はないとする声明を発表。

・ペトレンコ・ウクライナ法相は「ゲ」元法務次官を法務次官に任命すると発表。「ゲ」元法務次官は2004年に法務次官、その後イメレティ地方知事を経て2005年に内務次官を務めた。ウクライナの法務次官として汚職対策などを担当し、改革評議会を主宰する。

・ウクライナ政府の高官に任命されたグルジア人は、クヴィタシヴィリ保健大臣、ズグラゼ内務大臣に次いで3人目。

▼ハーン近隣政策・拡大交渉担当欧州委員がグルジアを訪問(15日-16日)

・マルグヴェラシヴィリ大統領、ウスパシヴィリ国会議長、ガリバシヴィリ首相、ベルチャシヴィリ外相、イリア2世グルジア正教会総主教、野党や市民グループの代表者らと会談。「ガ」首相とDCFTAの実施を支援する総額4450万ユーロの新たなプログラムに関する合意に署名。

・「ベ」外相との会談では、EU・グルジアの査証自由化についても話し合われたとして、3月に予定される査証自由化行動計画第2フェーズの進捗の審査について「とても良い結果」を期待していると述べた。

・ハーン欧州委員との会談後、「ガ」首相は、5月のリガでの首脳会議までに査証自由化に必要な全ての作業を完了させることが政府の優先課題の一つであると述べた。

▼グルジア・アルメニアの国防省の協力(16日)

・ギルシアシヴィリ国防次官がグルジアを訪問したトノヤン・アルメニア国防次官と会談。両国の国防省間の協力計画に署名。「ギ」国防次官は近隣諸国との協力の発展はグルジアにとって重要な課題であると述べた。

▼オリヴァー・OSCE議員会議事務局長がグルジアを訪問(16日-18日)

・マルグヴェラシヴィリ大統領、ウスパシヴィリ国会議長、ガリバシヴィリ首相、ドンドゥア外務次官と会談。

・「ド」外務次官との会談では、地域におけるグルジアの安全保障、被占領地域の情勢、ロシア・アブハジアの「条約」などについて議論。

・2016年春にトビリシでOSCE議員会議が開かれる予定。

2. 外 政

▼エストニア首相のグルジア訪問(12日)

・ロイヴァス・エストニア首相がグルジアを訪問。ガリバシヴィリ首相、ウスパシヴィリ国会議長および与野党の議員団らと会談した。13日には「ガ」首相とともにトビリシでグルジア・エストニア・ビジネスフォーラムを開いた。

・「ガ」首相との会談後の記者会見で、5月にリガで開かれる東方パートナーシップ首脳会議でグルジアがEUの査証自由化の決定を期待していることに関して質問され、「リガ首脳会議での成果を期待する」「まだ確実ではないが、エストニアはそれを強く支持している。グルジアは多くの基準を満たすフロントランナーであり、査証自由化の実現は可能である」と答えた。

・「ガ」首相は、「最も成功した国の一つであるエストニアは、モデルとなる模範的な国である」と述べた。

▼バクラゼ欧州・欧州大西洋統合担当国務大臣がヴェルシュボウNATO事務次官と会談(14日)

・ブリュッセルでNATO・グルジア委員会合会が行なわれ、2014年のグルジアの年次国家プログラム(ANP)進捗について議論された。

・合会に並行して「バ」国務大臣とドンドゥア外務次官が「ヴェ」NATO事務次官と会談。「ヴェ」NATO事務次官は、「NATOはグルジアの将来の加盟を約束しており、それに向けて進めるべくあらゆる手段を活用する」とコメント。

▼ゲツァゼ元法務次官がウクライナの法務次官に任命される(14日)

3. 内 政

▼国会での大統領演説への閣僚の出席をめぐる議論(13日)

・13日、マルグヴェラシヴィリ大統領は、2月に予定されている国会での大統領の年次演説に、昨年とは異なり、閣僚が出席することを期待すると述べた。2013年2月に行なわれた大統領の演説には閣僚は出席しなかった。

・14日、ガリバシヴィリ首相は、国会での大統領の演説

は象徴的なものに過ぎず、首相および内閣のメンバーが出席することが必要だとは思わないと発言。

▼大統領補佐官の任命(13日)

・マルグヴェラシヴィリ大統領は、NGO グルジア青年法律家協会の前代表コジョリゼ氏を司法・人権問題担当の大統領補佐官に任命。

・また、アバシシヴィリ経済担当大統領補佐官が大統領府事務次長に任命された。

4. 経 済

▼ラリの対米ドル為替レートの下落

・2014年11月半ばからラリの対米ドル為替レートは下落傾向にある。12月末にいったん持ち直したものの、1月9日には約2週間ぶりに1米ドル=1.9ラリを突破。1月18日には1米ドル=1.9434ラリをつけた。

▼世界銀行によるグルジアの経済成長予測(14日)

・世界銀行は2015年のグルジアの経済成長率を5%と予測。中央アジア・コーカサス地域ではトルクメニスタン10%、ウズベキスタン7.4%、タジキスタン6.4%に次いで4番目。

・グルジアの2014年の経済成長を5%と見積もり、2016年、2017年の経済成長をそれぞれ5%、5.5%と予測。

・中央アジア・コーカサス地域の経済成長率を2015年3%、2016年3.6%、2017年4%と予測。主要なリスクとして、ウクライナ情勢とそれに関連したロシアに対する経済制裁、欧州経済の停滞の長期化の可能性などを指摘。

▼ガソリン・ディーゼル燃料の輸入量(14日)

・グルジア石油製品輸入者連盟によれば、2014年のガソリン・ディーゼル燃料の輸入量は37万3900トンで前年より2600トン減。ディーゼル燃料の輸入量は52万9600

トンで前年より5万200トン増。

・輸入元の国別では多い順にルーマニア(ガソリン・ディーゼル燃料の総輸入量の33.5%)、アゼルバイジャン(26.5%)、ブルガリア(15.4%)、ギリシャ(11.0%)、ロシア(5.7%)、トルクメニスタン(5.2%)、イスラエル(2.6%)。

▼2014年12月の工業製品生産者物価指数(15日)

・国家統計局が発表。前月比2.4%上昇、前年同月比6.4%上昇。

▼クヴィリカシヴィリ経済・持続的発展大臣の発言(15日)

・露ロスネフチ社がペトロカス社の株式の49%を取得したことに関連し、「ロ」社による「被占領地域に関する法律」の違反の可能性について記者から質問されたクヴィリカシヴィリ経済・持続的発展大臣は、「ロ」社による「ペ」社の株式の取得に関する法的な問題について経済・持続的発展省、法務省および外務省が合同で調査しているところであるとして、調査が済み次第結果を明らかにすると述べた。

▼2014年12月の海外からの送金額(15日)

・国立銀行の資料によれば、2014年12月の海外からの送金額は116.1百万ドルで、前年同月比25%減。送金元の国別では多い順にロシア(47百万ドル)、ギリシャ(18百万ドル)、イタリア(11.2百万ドル)、米国(8.6百万ドル)、トルコ(6.6百万ドル)、ウクライナ(2.7百万ドル)。前年同月比でロシアからの送金が43%減、ウクライナからの送金額が67%減。